

米の大学生 福山訪れ研修

日本の伝統芸能は素晴らしい！ 福山大（福山市東村町）の姉妹校・米国カリフォルニア大リバーサイド校の学生が、日本文化を学ぶため、6月末から7月初めにかけて来福。能や座禅体験をはじめ、講義や文化遺産の見学を通じて、日本への理解を深めた。

（内田光祐）

日本文化に興奮



喜多流大島能楽堂で、能の基本動作を体験する米国の学生たち

能や座禅挑戦 鞆の浦など見学

福山大が十日間の日程で開催した「日本文化研修」に、リバーサイド校の七人が参加。学生は、市民宅にホームステイしながら、日本の文化や歴史、経済についての講義を受けたほか、陶芸や華道、座禅を体験。景勝地鞆の浦や宮島、尾道なども見学した。

三日は、能の喜多流大島能楽堂（福山市光南町）を訪問。門下生の寺田良二さんらから、能の歴史や能舞台の解説を聞いた後、シテ方大島衣恵さん（三）の仕舞「八鳥」を鑑賞。研修生らは、興味深そうにメモを取ったり、写真を撮ったりしていた。

続いて、地謡や能の基本動作のすり足に挑戦。慣れない足袋とはかまに窮屈そうに苦笑いを見せながらも、伝統芸能を熱心に学んだ。ブライアン・ニコルさん（三）は「初めて体験した日本文化の数々に興奮した。将来、英語教師として日本で働きたい」と話していた。

同校は、一九九〇年に姉妹校縁組。以来、学生が互いに訪問、研修を受けている。今年の夏休みには、福山大の学生十四人が、リバーサイド校で約一月の語学研修を受ける予定。